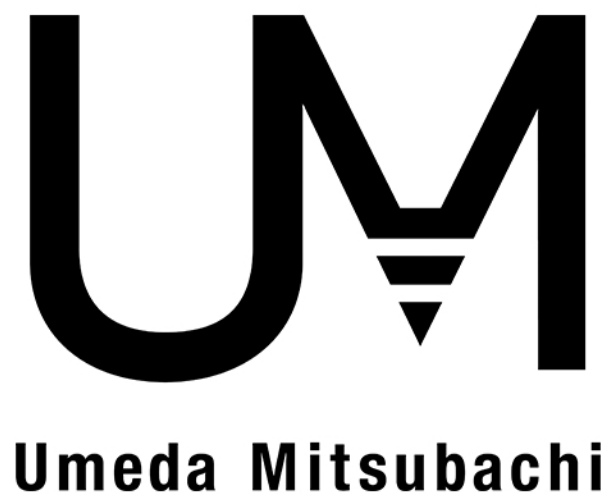




～ミツバチが住む街の
花と緑に関係とまちづくりについて～

小学生対象 環境学習（課外授業）のご案内

都市養蜂は、花蜜を集め受粉を行うミツバチの習性に基づき、
地域の緑を保全する意味を都市生活者が改めて認識することができる取り組みです。
都会では感じることのし難い生物の循環を、
都市養蜂を実際に見学することで子供達に身近に感じてもらい、
環境に対する興味・関心を高めることができます。
また、食物の受粉に関わるミツバチの生態を学ぶことで
食育教育にも繋げることができます。



都市養蜂プロジェクトとは、 地域の未来環境をも考えるサステイナブルな環境共生活動が目的



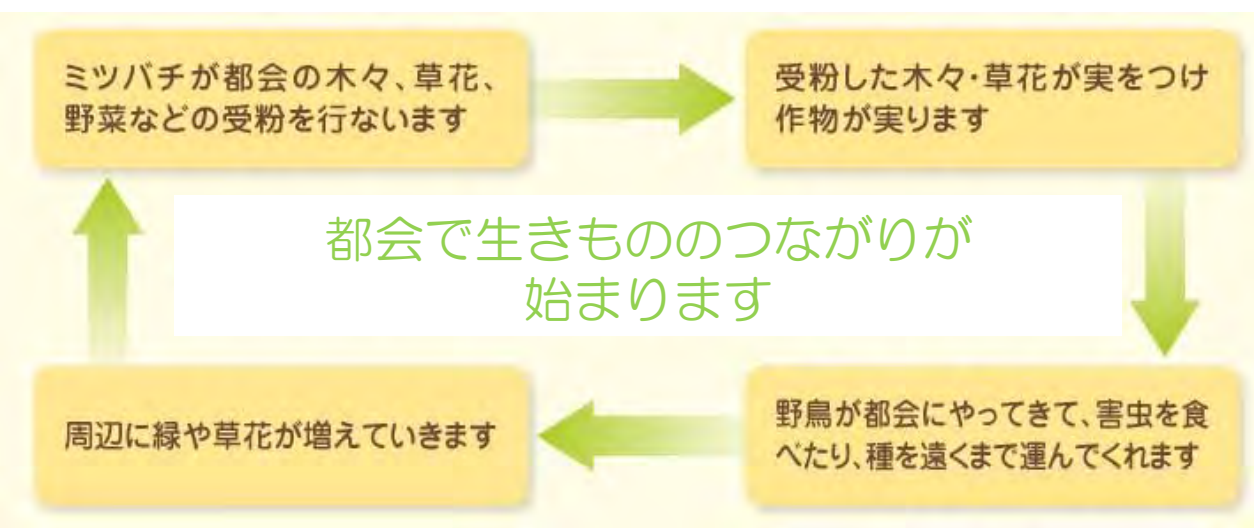
日本全国で広がっているミツバチプロジェクトは、ハチミツの採取を主たる目的とするのではなく、採蜜体験や講習会などを開く「環境教育」「食育教育」、採取したハチミツを使った「地域ブランディング」、周辺の緑化の啓発や緑化活動を行う「緑化促進活動」、そして周辺の蜜源マップ作成などを行う「蜜源調査」などを目的とした環境活動です。

～梅田ミツバチプロジェクトとは～

2010年茶屋町にて地域の有志による都市養蜂活動が茶屋町のビル屋上で始まり、2013年にNPO法人化。NPO法人梅田ミツバチプロジェクトとして活動を行っています。

～都市養蜂について～

都会でミツバチを飼育したら、どんなことが起こるのか？





都市養蜂とは、 都市部のビル屋上や遊休地エリアを利用して 養蜂を行う活動

都市養蜂（ミツバチプロジェクト）は、花蜜を集め受粉を行うといったミツバチの習性に基づき、地域の緑を保全する意味を都市生活者があらためて認識することが出来る取り組みであり、地球の未来環境をも考える、サステナブルな環境共生活動と言えます。

ミツバチが存在することで、屋上菜園や植物育成のための受粉が行われ、かつミツバチは蜜を採集することができ、副産物としてハチミツを収穫することも出来ます。
地域生態系における相乗効果となる生態系連鎖が生まれます。

ミツバチの行動範囲では、公園や街路樹はもちろん、プランターなどの小さな草花にも訪れていることが確認できており、都市養蜂（ミツバチプロジェクト）が都市生活者に自然との触れ合い機会を提供し、環境への意識を向上させると同時に受粉を通して周辺緑地の活性化にも貢献することが出来るユニークな取り組みです。

実際に活動するプロジェクトが実施した調査では、「自分の住む地域でこんなに美味しいイチゴが取れるなんて驚いた」「受粉のために都市にミツバチは必要だと感じた」などの声が寄せられ、都市生活者に対して、生態系サービスや生物多様性の視点で、都市部の緑化を見直すきっかけ作りに繋がられると言えます。

環境教育を受講した児童の保護者からは、「緑や花に関する親子の会話が増加した」「子供が自然環境に強い興味を示すようになった」などの声が寄せられ、自然環境に関する啓発活動として期待できる活動と言えます。

今後のまちづくりにおいて、緑化の推進などによる環境整備に加え、ミツバチプロジェクトのようなソフトプログラムを提供し、人と自然が共生できる生物多様性に配慮した都市環境形成を推進することが重要になると考えております。





ミツバチは我々人間に、 自然の恵み（生態系サービス）を提供してくれる 地球上における重要な生物。

ミツバチは植物の受粉に関して大きな役割を担っており、ミツバチやその仲間による受粉の恩恵を得ているものは、オクラやカボチャ・イチゴなど数多く存在し、米国では食糧のおよそ1/3がミツバチの受粉と何らかの関わりをもっていると言われています。アインシュタインの説では、ミツバチが絶滅するとその4年後に人類は滅びると言われるほど重要な生物なのです。

ミツバチの働きは農業が行われる田園地域だけでなく、最近増加している都市の菜園や公園の緑、街路樹にとっても重要な要素。都市域では受粉を行う昆虫が少ないため結実できない樹木が多いが、ミツバチプロジェクトの実施地区周辺では桜の木にサクランボが出来るようになったとの報告もあります。都市の樹木が結実するようになれば、その実を食べに野鳥が集まり、集まってきた小鳥は害虫なども捕食してくれる。都市域でミツバチを飼うことによってこのような連鎖反応が生まれ、健全な生態系を再生してくれる効果を期待することが出来ます。

あまり知られていませんが、ミツバチの寿命は約50日です。

その一生をかけて集めるハチミツは、わずか3グラム程度で小指の先ほど。普段何気なく食べているハチミツは、小さな命の積み重ねなのです。

ミツバチの針は卵管の延長であり、1度刺すと内蔵が飛び出して死んでしまいます。余程の事がないとミツバチは人を刺しません。



why bees **matter**

85% of plants exist
because of bees.



Bees are responsible for
food quality and safety.
We can thank a pollinator for as
much as 1/3 of all food we eat!



You can thank bees for the
grasses that feed our cows.

Without them there would be no milk,
cheese or beef.

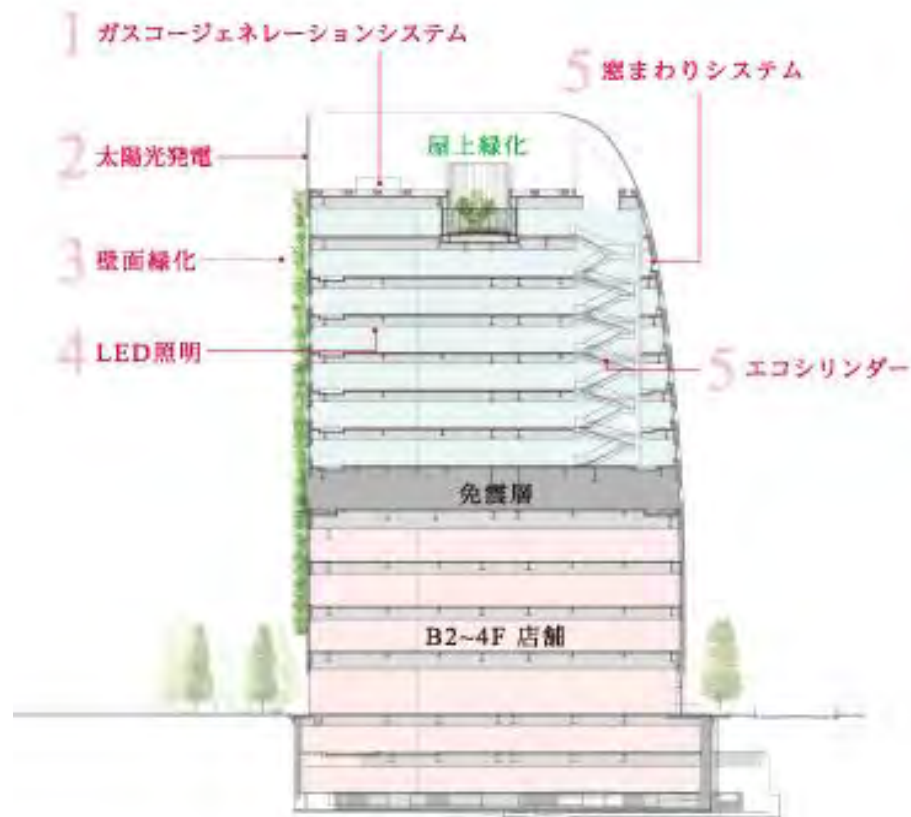
WHOLE
FOODS.
MARKET

都市養蜂を
通じた
環境学習

学びの場として、
ミツバチの生態系についてのセミナーに加え、
実際の養蜂場の見学も行っていただけます。

～課外学習会場について～

梅田ミツバチプロジェクト茶屋町養蜂場が学びの場



茶屋町養蜂場は、
大阪梅田茶屋町（大阪駅より徒歩8分）ヤンマービル12階にあります。
館内に設置されたカフェテリアの中に併設された専用施設です。
空調、お手洗いも完備しており、快適で衛生的な空間。

360° 完全ガラス張りの養蜂場は見やすく、
かつ一般外来者が刺される心配はありませんので、
安心してミツバチを観察していただけます。

～学習メニュー～

- 日本に生息するミツバチ
- ミツバチと私たちの環境
- ミツバチと植物の関係性
- 養蜂の歴史
- ミツバチの生態
- ハチミツができるまで
- 都市養蜂のメリット
- 梅田ミツバチプロジェクトの活動実績と目標
など





小学生案内・着席(10分)

先生とミツバチプロジェクトから挨拶(10分)

* 後ろの席からでもよく見えます。



座学(25分)

* 参加型で進めていきます。

休憩(10分)



養蜂場見学(20分)

* ガラス越しに見学していただきます

質問(10分)





笑顔がいっぱいのまちづくり

たくさんのハチミツをとって、多くの人に味わってもらい、みんなが笑顔になれるまちづくりの魅力を伝える。

緑や花がいっぱいのまちづくり

大阪のまちにたくさんの花や木をふやし、ミツバチも人も楽しく暮らせるまちづくりについてを伝える。

おいしいハチミツをたべてもらいたい

より多くの人に、ミツバチと人間の重要な関係性に興味を持ってもらうために、実体験できる希少な体験となるハチミツを食べることで、身近な視点で生活環境への気づきの機会を増やしていく。



2013年5月
御堂筋KAPPOひまわりの種プレゼント



2014年3月大阪市立中津小学校
ミツバツツジ寄贈・植樹



2014年7月 梅田ゆかた祭り



2014年10月～
グランフロント大阪マルシェ出店



2013年7月
ハチミツ専門店 ラベユにて販売開始





NPO法人 梅田ミツバチプロジェクト事務局

大阪市北区大淀中1-8-24 大淀Green 2F
TEL:06-6147-3769

担当：小丸（NPO代表理事）